

接続した各EVへの充電量を制御し、電気料金を抑えた運用が可能です！

導入しやすい
3つの理由

- 1 ランニングコストを削減
- 2 電力契約の大幅変更が不要
- 3 設備の改修が不要



充電量制御の仕組み

従来型充電システムの場合

接続した順番で充電

後から接続した車は充電自体ができない場合がある



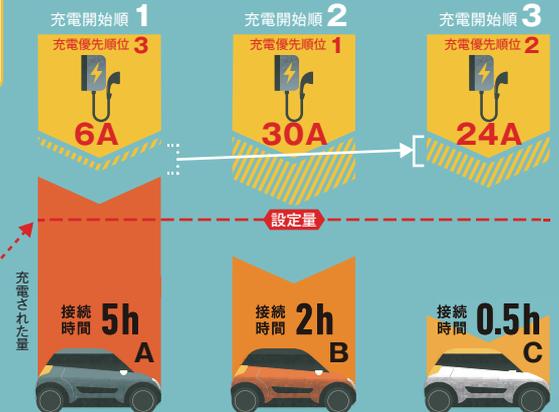
比較条件：夜間の充電制御において、充電可能量が60Aの場合。

カワムラ
×
JAXA
のテクノロジー

wayEVの場合

設定した優先順位に応じて充電

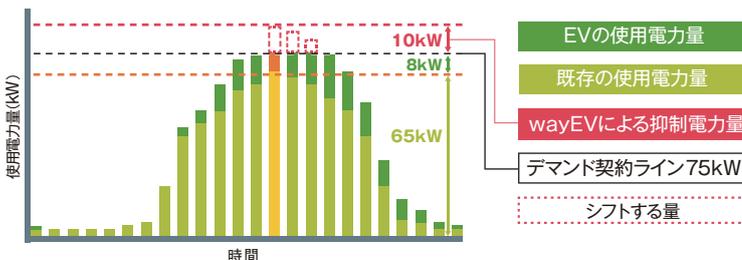
一定距離を走れる量まで優先して充電する



一定距離を走行できるぶんを設定することで、たくさん車の充電可能になると同時に、電気の使いすぎを抑制します。

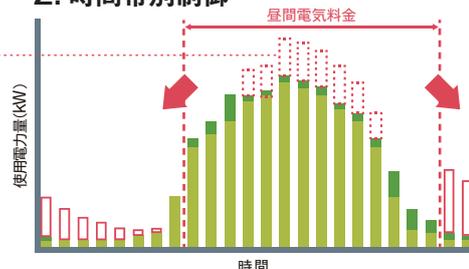
ランニングコストを抑える2つの制御

1. デマンド制御



デマンド契約値を超えないように充電量をコントロール。年間の基本料金を抑制。

2. 時間帯別制御



一定距離走れる量を充電したら充電をストップ。なるべく電気料金の安い時間帯で充電を行う。

●仕様及び外観等は予告なく変更する場合があります。

